

部課名		環境資源部環境政策課											
課の使命		・持続的発展が可能な循環型社会を実現するため、市民・事業者と連携・協働し、ごみの減量・資源化を進めます。 ・部内各課が円滑に業務を遂行できるよう、環境資源部のまとめ役として、様々な情報を共有し、各課の調整を行います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	第2次町田市 一般廃棄物資 源化基本計画 後期アクション プラン及び第2 次町田市食品 ロス削減推進 計画の進捗管 理	廃棄物関連課と協働で「第2次町田市一般廃棄物 資源化基本計画後期アクションプラン」及び「第2次 町田市食品ロス削減推進計画」を推進するため、 年度事業計画の進捗状況を管理し、結果を公表し ます。	廃棄物減量等推進審議 会での進捗点検の実施	実施								
2	個別 計画	製品プラス チックの分別 収集・資源化	効率的な暫定処理方法についての検討を進めます。 す。	積み替え・保管場所の候 補地の選定	選定								
3	個別計 組画 む / 施全 策庁 で取 り	プラスチックの 発生抑制/「ゼ ロカーボンシ ティまちだ」	プラスチックの使用量の削減のため、ごみ袋として 使えるレジ袋の導入に向けて、市民の方が持ち歩 きたいと思うような袋のデザインの検討を行います。	袋のデザインの検討	決定								
4	個別 計画	粗大ごみ手数 料の見直し	2010年度の制度開始以来見直しを行っていなかつ た粗大ごみ処理手数料について、2025年11月の 「受益者負担の適正化に関する基本方針」の改定 を受けて、収集品目の変化等を踏まえた手数料の 見直しの検討を行います。	検討の実施	検討結果の取 りまとめ								
5	個別 り計 組画 む / 施全 策庁 で取 る	フードドライブ の拡大/「ゼロ カーボンシ ティまちだ」	誰でも気軽にフードドライブに参加できる環境を整 えるため、フードドライブ回収拠点を拡大します。	新規開設窓口数	1か所								

順位	計画 類型	年度目標設定				中間確認			年度末確認				
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
6	個別 計画 / 全庁 で取 組む 施策	家庭でのごみ 減量の推進/ 「ゼロカーボン シティまちだ」	①家庭から排出される燃やせるごみ量の約40%を占める生ごみ削減のため、生ごみ処理機等の利用を促進します。 ②2026年4月に開始した、市全域での容器包装プラスチックの収集・資源化について、特に市内小学校を中心に、ごみに関する出前講座等を実施し、子どもへの環境教育を推進します。 ③ごみの減量・資源化に向けた新たな取り組みを実施します。	①町田市生ごみ処理機等購入費補助金制度利用世帯数、生ごみ削減量 ②出前講座及びイベント等の実施回数、参加者数 ③新規事業数	①400世帯 7,000kg ②115回 19,000人 ③1事業								
7	個別 計画	事業系ごみの 適正排出の ための推進	①まちだ3R賞の普及啓発を通して、一般廃棄物の減量及び適正処理を、積極的かつ組織的に取り組む事業者を増やします。 ②市内事業者の優良取り組み事例を、大規模事業所立入検査や、事業者向け講習会、少量排出事業者訪問等の際に共有し、自社の取り組みに活かせるよう周知します。	①3R賞表彰の新規事業者数 ②優良取り組み事例の周知事業者数	①2事業者 ②800事業者								
8	事務 事業 見直し	委託業務の見 直し	現在、委託で実施している「使い切り料理教室」や「ダンボールコンポスト講習会」、「大型生ごみ処理機事業」、「サポーター研修会」等の業務の見直しを行います。 また直営で実施している「出前講座」や「イベント参加」、「地域資源回収」や「生ごみ処理機等補助事業」の事務作業等の委託化を検討します。	見直しの検討	完了								
9	人材 育成	「チャレンジ志 向」	課の職員のチャレンジ志向を育むため、課内勉強会を開催し、業務上の課題や先進事例の共有を行います。	課内勉強会の回数	2回								
10	個別 計画	非常時の対応 能力の強化	災害対応訓練等、実践的な災害対応能力の強化に取組めます。	訓練の実施	実施								

部課名		環境資源部環境政策課 温暖化対策担当											
課の使命		・「みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ」を実現するため、市民・事業者・町田市それぞれの環境に関する取り組みを推進します。 ・「ゼロカーボンシティまちだ」の実現のため、市民・事業者とともに、地球温暖化防止に関する取り組みを推進します。また、率先した取り組み姿勢を示すべき行政として、町田市の公共施設における温室効果ガス排出削減に向けた取り組みを推進します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	重点 事業 プラン	第3次町田市 環境マスター プランの推進	①第3次町田市環境マスタープランの推進のため、学識・事業者、市民から構成される町田市環境審議会や、庁内の町田市環境管理委員会で進捗点検を行います。 ②市民・事業者・行政が連携・協力して、温室効果ガスの排出量の削減に取り組みます。 水素エネルギーの利活用支援として、家庭用燃料電池システムを設置した際の奨励金を交付します。 ③次世代エネルギー等の普及のため、環境学習会を開催するなど、地球温暖化対策に関する啓発活動を推進します。	①町田市環境審議会及び町田市環境管理委員会における進捗点検の実施 ②温室効果ガス削減量 ③イベントに参加した市民の数	①実施 ②133t-CO2 ③980人								
2	全庁で 取り 組 む 施策	「ゼロカーボン シティまちだ」	①一事業者としての計画である「第5次環境配慮行動計画」に基づく環境マネジメントシステムにおいて、2025年度実績について、外部評価委員会による評価を行い、その内容をもとに市長総括を行います。市長総括後、町田市省エネルギー等対策会議に報告し、市全体への共有を行います。 ②「町田市の電力調達に係る環境配慮方針」に基づき、施設所管課に対し温室効果ガス排出ゼロの電力調達のための支援を行います。 ③環境負荷低減に向けて、職員の環境意識の向上を図るための啓発活動を行います。	①町田市省エネルギー等対策会議開催回数 ②温室効果ガス排出ゼロの電力調達に関する周知回数 ③-A 庁内向けEMS情報誌「ハスのんだより」の発行回数 ③-B グリーン購入に関する啓発活動の実施回数	①3回 ②2回 ③-A 4回 ③-B 5回								
3	人材 育成	「チャレンジ志向」	温室効果ガス排出量の削減に先進的に取り組む民間事業者や自治体等への視察等を実施し、ゼロカーボンシティに関する取り組みの推進に向けた情報収集に努めます。	視察等の参加回数	26回								
4	事務 事業 見直し	業務・事務の 効率化・サー ビス向上	公共施設の使用エネルギーや温室効果ガス排出量について、2027年度の国への報告から原則LAPSS(※)単独で集計できるよう、2024年度以降のデータ修正作業や不足データの追加入力等、データの整理を行います。 ※LAPSSとは、環境省が提供している「地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム」の略称で、公共施設の使用エネルギーや温室効果ガス排出量を計算するものです。	実施	実施								

部課名		環境資源部環境共生課											
課の使命		・市民や事業者とともに、まちの美化や生物多様性保全に取り組み、その意識を高めていきます。 ・市内で発生する公害や市民の身近な環境に関する問題を低減し、環境保全のためのルールが守られた清潔、安全、快適なまちをつくります。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画 ／ 施策 庁で 取り 組 む	生物多様性の保全に関する取り組みの推進/「子どもにやさしいまちの実現」	市民が生きものに対する関心を高められるよう、生物多様性の大切さを広く市民に普及啓発を行います。 取り組みにあたっては、特に次世代を担う子どもに興味を持っていただくことを中心に、普及啓発活動を推進します。	①子ども向け普及啓発活動の回数 ②「これまでより生きものを知りたくなった」と回答した人の割合	①7回 ②90%								
2	個別 計画	市内全域におけるまちの美化意識向上の周知・促進	ポイ捨て防止や喫煙マナー向上などのまちの美化に対する意識向上の推進のために、市内の各駅周辺における市民と協働した啓発活動やハスのインスタグラム等での周知を行います。 また、2026年度は8市(横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、大和市、町田市)で連携して、まちの美化イベントを実施します。	①まちの美化推進啓発活動の回数 ②美化活動参加団体数 ③実施	①40回 ②65団体 ③実施								
3	経営 改革 プラン	情報発信の充実	市内の環境に関する調査結果や公害に関する情報について、オープンデータでの公表を進め、市民、事業者等が行政データを活用する機会を拡げていきます。	公開データファイル累計件数	新規1件 (累計5件)								
4	経営 改革 プラン 見直し ／ 事務 事業	行政手続のデジタル化の推進	公害関連法令等に基づく届出・申請について、事業者や市民の負担を軽減するため、オンラインでの手続を推進します。また、これまで紙で保管していた届出書類を電子化しデータベースで管理することにより、業務の効率化とスペースの狭小化解消を図ります。	①オンライン化した手続の種類 ②公害関係届出の保管書類の量	①新規3種類 (累計27種類) ②紙保管量6%減(対2025年度)								
5	人材 育成	業務マニュアルの整備/「市民志向」	業務マニュアルを整備し、異動等による担当変更や主担当以外による対応が必要となった場合においても、速やかに市民対応ができる環境をつくり、市民サービスを向上します。	業務マニュアルの作成・見直し件数	新規1件 (累計6件)								

部課名		環境資源部ごみ収集課											
課の使命		私たちは、市民、市民団体、事業者とともに、資源化や適正処理を進め、みんなで将来に受け継ぐ持続可能な環境をつくります。 私たちは、市民一人ひとりがごみの分別について「自分ゴト」として取組めるよう、市民団体や事業者とともに排出環境を整え、資源化や適正処理につながる排出方法を案内します。 私たちは、市民から託されたごみや資源物を、安全に収集して、資源化施設や処理施設に確実に届けます。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	個 事 別 業 計 見 画 直 ／ し 事 務	収集委託事業者選定方法の決定	収集委託事業者選定について、安定的に事業継続するため、価格のみに拠らない選定方法を検討します。	選定方法の検討	選定方法決定								
2	個 事 別 業 計 見 画 直 ／ し 事 務	収集支援システムの導入	住民サービス向上や危機管理能力の向上のため、収集支援システムを導入して、収集情報のデジタル化を進めます。	導入準備	導入準備完了								
3	個 別 計 画	資源物収集車両の従業員増員	安全かつ安定的な収集業務を継続するため、資源物収集における収集車両の従業員を1名から2名にします。2028年度からの実施に向けて準備を完了します。	契約準備	準備完了								
4	個 別 計 画 ／ 人 材 育 成	市職員と収集委託事業者の情報交換／市民志向	市職員と収集委託事業者の情報交換の場を設けます。 収集作業中の事故削減や事故防止の取組と、収集作業時の市民への配慮事項に関する情報を共有し、好事例の横展開を図ります。	委託事業者との連絡会の開催回数	2回/年								
5	人 材 育 成	ミニ・ジョブローテーション／市民志向	各係の業務に短期間従事することで、それぞれの係に寄せられる相談や問い合わせと、その対応を体験する場の設け、市民目線で課全体の業務を考える視点を育みます。	係間業務体験(ミニ・ジョブローテーション制度)	実施								
6	個 別 計 画	容器包装プラスチック分別収集の定着化	容器包装プラスチック分別収集を、2026年4月から市全域で開始します。SNSなどを通じた情報発信や、ルール通りに排出されなかった方に直接ご案内するなどし、適正な分別排出の定着化を図ります。	①SNSのフォロワー数増加 ②不適切排出者への排出指導	①フォロワー数20%増(2025年度末比) ②排出指導の実施								
7	全 庁 で 取 り 組 む 施 策	「ゼロカーボンシティまちだ」	職員の移動などに使用する連絡用車両6台のうち、3台を電気自動車に入れ替えます。また、自転車の積極利用や、職員移動抑制のためオンライン会議活用などを行い、ガソリン使用量を削減します。	連絡用車両の1台当たりガソリン使用量	2024年度比(596.9ℓ/年)50%減								

部課名		環境資源部循環型施設管理課											
課の使命		・所管施設に搬入されたごみを安全かつ安定的に適正処理します。 ・ごみ処理の過程で発生するエネルギーの効率的な回収とごみの資源化を進め、循環型社会の実現を進めます。 ・施設周辺地域の方が快適に安心して暮らせる環境を守ります。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	一般廃棄物処理施設の適切な運営・管理	①町田市バイオエネルギーセンターの運営をモニタリングし、ごみ処理を滞りなく進めることで、付加要素である電力を計画的に発電します。 ②資源化物の暫定処理がストックヤード棟で開始されるため、安全を考慮した運営を行います。	①町田市バイオエネルギーセンターの発電量 ②安全連絡会議回数	①44,000MWh (計画発電量の90%以上) ②12回								
2	重点 事業 ブラ	最終処分場峠谷地区(旧埋立地地区含む)上部公園の利用に向けた取り組み	①最終処分場峠谷地区を安全かつ適正に閉鎖することを目的とした安全対策工事(2026年度～2028年度)を行います。 ②最終処分場の効率的な維持管理に向け、排水浄化センターの機能縮小を目的とした改修工事を行います。	①安全対策工事の着手 ②改修工事の完了	①着手 ②完了								
3	-	町田市バイオエネルギーセンターを活用した環境啓発の推進	賑わい創出、環境啓発の推進に向けて、施設を活用したイベントを開催します。集客数・見学者数が減少傾向にあるため、内容・周知方法等の検討を行います。 ・3Rまなびフェスタ ・夏休み子どもイベント ・煙突登りイベント ・施設見学の土曜日開催	①イベント集客人数 ②施設見学人数	①延べ1,300人 ②延べ3,000人								
4	事務 事業 見直し	経営改革の推進／業務の効率化	①委託業務の管理方法や仕様の見直しを行います。 ・最終処分場安全対策工事に伴い、影響を受ける町田市バイオエネルギーセンターにおける清掃及び警備等委託業務の緑地管理範囲の見直しを行います。また清掃内容や警備等の施設維持管理の充実を図ります。 ・リレーセンターみなみと剪定枝資源化センターにおける計重機の点検仕様を見直し、点検の効率化と費用の低減を図ります。 ②各種収入事務のRPA(Robotic Process Automation)化を含む業務の効率化の検討及び導入を行います。 RPA化・・・人間がPC上で行う定型業務をソフトウェアロボットが代わりに自動実行すること	①見直し件数 ②導入件数	①2件 ②1件								
5	人材 育成	「チャレンジ志向」	職員の課題解決能力向上を目的に研修を実施します。 ・グリーン購入課内研修を実施します。 ・会計事務」に関する課内の研修を実施します。 ・PPP/PFIに関する課内研修を実施します。	研修回数	3回								
6	全庁 で 施策 取 組 む	「ゼロカーボンシティまちだ」	コピー用紙の使用枚数の削減をします。 また削減に向けて課内周知を行います。	コピー用紙使用枚数	89,800枚 (2025年度比5%減)								

部課名		環境資源部循環型施設整備課											
課の使命		町田市資源循環型施設整備基本計画(2013年4月策定、2023年5月改定)に基づき、循環型社会の構築を目指し、市民との協働で環境負荷の少ない周辺地域に配慮した資源循環型施設整備を進めます。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定						中間確認			年度末確認				
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	重点 事業 プラン	相原地区における資源ごみ処理施設の整備	市民との協働で、周辺地域に配慮した環境負荷の少ない資源ごみ処理施設の整備を進めます。 ①用地全面取得 ②自然環境調査 ③地区連絡会の開催	①用地取得率 ②自然環境調査 ③開催回数	①用地全面取得 ②調査実施 ③1回/年								
2	重点 事業 プラン	上小山田地区における資源ごみ処理施設の整備	市民との協働で、周辺地域に配慮した環境負荷の少ない資源ごみ処理施設の整備に向け検討を進めます。 ①施設計画位置の決定 ②地区連絡会の開催	①施設計画位置の検討状況 ②開催回数	①施設計画位置の決定 ②1回/年								
3	個別 計画	事業の進捗状況の情報提供	ごみの資源化施設整備事業の進捗状況を広報紙にて情報提供します。 ・ごみ資源化施設建設NEWSの発行	発行回数	1回/年								
4	人材 育成	「市民志向」に向けた取組	市民の皆様には事業概要などについて市の考えを正しく伝えるために、説明資料や読み原稿の作成時には常に『伝わる日本語』を意識することを徹底します。 印刷物の作成時には、誰にでも読みやすいデザインを心がけます。 ・「見直そう！」伝わる日本語”推進運動”活動報告書を参考にした研修を実施します。 ・印刷物等のユニバーサルデザインルールブックを参考にした研修を実施します。	研修回数	2回/年								
5	事務 事業 見直し	委託業務の見直し	取得した用地の管理を適切に行い環境維持に努めます。 ・小規模な草刈りは、業者に委託せず職員で実施します。	実施回数	1回/年								
6	全庁 で 取り 組む 施策	「ゼロカーボンシティまちだ」	ノートPC等を活用して紙使用量を削減します。	2025年度分と比較した紙資料の印刷枚数	5%削減 (前年度比)								